

きっかけは免疫力の低下。恐ろしい“疲労”の病気 「慢性疲労症候群／筋痛性脳脊髄炎 (=CFS/ME)」

健全に生活をしている人でも、ある日突然発症の可能性が。症状改善まで数年を要することも

原因不明の強い疲労・倦怠感に襲われる『CFS/ME』。風邪などをきっかけに発症し、微熱、リンパ節腫脹、頭痛、筋力低下、睡眠障害、思考力・集中力の低下といった症状が伴います。患者の25%が「日常生活や軽労働さえも不可能」という深刻な状況ですが、一般的な検査では異常が見つからず、根本的な治療方法もありません。

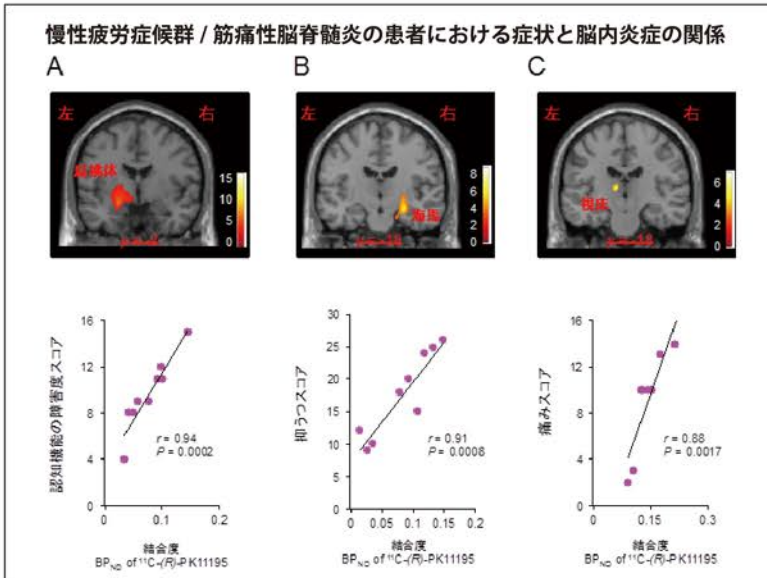
まだまだ未解明な部分が多いCFS/MEですが、病因解明に向けた兆しも見えてきました。理化学研究所の発表によると、CFS/ME患者の脳には、特定の場所に炎症が発生していることが判明。しかも、頭痛などの各症状に対して、それぞれ異なる部位に炎症があることがわかりました。研究チームは、被験者100人規模を目標に臨床研究を開始。脳の炎症との関

係をさらに解明していくことに加え、バイオマーカーの特定や治験を実施していく方針です。

現時点では、CFS/MEは下記のメカニズムで発症すると考えられています。

- ①「過度のストレス」によって自律神経が乱れる
- ②自律神経が乱れることで「免疫機能」が低下し、風邪などの感染症にかかる
- ③体が感染症と戦う過程で、神経・内分泌・免疫系に異常が発生し、脳や神経に悪影響を及ぼす

つまり、ストレスによる「免疫力低下」が発端となっている可能性が高いのです。予防として、ストレスをうまく発散し、腸活などで免疫力を高める生活を心がけましょう。



出典元：理化学研究所による広報 http://www.riken.jp/pr/press/2014/20140404_1/



文 宮本 貴司 text by Takashi Miyamoto

Profile

株式会社デルフィーノケア 代表取締役

1972年生まれ。日大文学部卒業。事業会社でITサービス、地域コミュニティサイトなど新規事業立ち上げを経験後、2015年12月に代表取締役に就任。「感染症ゼロを目指す」のコンセプトのもと、警察、病院、薬局、学校、オフィス等に「まるごと抗菌」を提供しています。